



株式会社 日立ハイテク
代表取締役 取締役社長
高木 由充

真の課題を「知る力」で捉え、 社会価値の創出に挑む

PLEDGESのもと、 「知る力」を起点とした社会価値の創出

当社グループは、日立グループサステナビリティ戦略「PLEDGES」のもと、事業を通じた社会価値の創出に取り組んでいます。私たちは最先端の計測・分析技術とグローバルな事業基盤を通じて、ステークホルダーの皆さまとともに、健康で安心な暮らしの実現、環境負荷の低減、産業の持続的な発展に貢献しています。

当社事業は、半導体、ヘルスケア、先端材料、産業・社会インフラなど、多様な領域でお客さまの現場に寄り添い、その課題への理解を深めてきました。各種の高度なセンシングテクノロジーを備えた世界トップクラスのプロダクトは、状態や変化をデータとして捉え、新たな知見につながる情報を生み出してきました。現場への深い理解とプロダクトが生み出すデータから目の前の課題だけではなく、その裏に潜む本来解決すべき課題を明らかにする力、真の課題を「知る力」が私たちの強みです。

フィジカルAIとデジタルイズドアセットが 切り拓く新たな可能性

「知る力」で明らかにした真の課題を解決へと導く鍵となるのが、デジタルセントリックな価値創出です。当社グループの装置—半導体製造・計測装置、医用分析装置、放射線治療システム、分析・解析装置などは、価値の源泉となるデータを生み

出す「デジタルイズドアセット」です。装置から得られるリアルなデータに私たちが長年培ってきたドメインナレッジとAIを掛け合わせることで、データを新たな価値へと転換していきます。「Lumada 3.0」のもと、産業分野向け次世代ソリューション群「HMAX™ Industry」を通じて、お客さまの現場に新たな価値を創出していきます。

創出した価値を生かすために、お客さまの現場では、現実世界を理解・判断し、実際に動作するAI「フィジカルAI」が活躍しています。当社グループは、「フィジカルAI」の現場適用を強化する技術として、装置に直接組み込めるエッジAI半導体を日立製作所と共同で開発しました。データが生まれるその場で解析・判断する「プロダクトの知能化」をさらに進めることで、私たちは「デジタルイズドアセット」の価値を高め、クラウドから現場まで、AIを活用できる領域を広げていきます。

お客さまのライフタイムバリュー 最大化に貢献

私たちが創出する新しい価値は、お客さまの現場での成果につながることで完成します。私たちのエンジニアリングとプロダクトの力で、研究開発(Lab)から量産(Fab)までを一気通貫で支援し、開発期間の短縮、品質・生産性向上、資源の効率的な活用の実現をめざします。さらに、お客さまの製品の量産後の運用・保守まで見据えたライフサイクル全体で価値を提供することで、Lab to Fabに携わるお客さまのライフタイムバリューの最大化に貢献していきます。

ハーモナイズドソサエティの実現に向けて

私たちが向き合う社会課題は、年々複雑さと難しさを増しています。容易に答えの見つからない課題であるからこそ、私たちはお客さまとの対話を重ね、現場の声やデータから本質を捉え、解決に向けた一歩を着実に踏み出すことを大切にしています。

解決に導いた結果生まれる社会価値を常に意識し、私たちは従来の知見や経験に加え、新たな技術や発想を柔軟に取り入れ、失敗を恐れず挑戦を重ねていきます。

ステークホルダーの皆さまとともに、一つひとつの挑戦から生まれる価値を社会へと実装し、環境・幸福・経済成長が調和するハーモナイズドソサエティの実現をめざしてまいります。

